



感染症に気をつけよう！



1 全数報告感染症(感染症法 1~5 類感染症) 7月の報告件数 **風しん**11件、**腸管出血性大腸菌感染症**7件、**麻しん(はしか)**5件でした。その他、**レジオネラ症**、**後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む)**が2件ずつ、**デング熱**、**マラリア**、**アメーバ赤痢**、**バンコマイシン耐性腸球菌感染症**が1件ずつでした。夏休みの旅行では、海外で流行している感染症にも気をつけましょう。厚生労働省検疫所ホームページ「[FORTH](#)」をご覧ください。

2 定点報告感染症(感染症法 5 類感染症) 平成 24 年 6 月 25 日~7 月 22 日

疾患名	市内流行状況		コメント
ヘルパンギーナ	◎	➔	6月下旬から報告が増え、市全体でも警報レベルに近づいています。これから秋にかけて流行するので注意が必要です。
手足口病	●	➔	市全体でやや増加しており、2つの区では警報レベルになっています。例年夏に増加するので、注意が必要です。
マイコプラズマ肺炎	●	➡	全国的に流行しています。市内でも昨年の報告をやや上回る状況が続いており、引き続き注意が必要です。

★大流行 ◎流行 ●やや流行 ▲散発 ➔増加 ➔やや増加 ➡横ばい

3 今、気をつけたい感染症

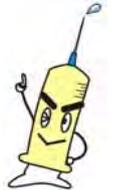
風しん 風しんウイルスによっておこり、主な症状は発疹・発熱・リンパ節のはれです。小児では通常あまり重症にはなりません。妊婦(特に妊娠初期)の女性が感染すると、白内障・心疾患・難聴などをもった、**先天性風しん症候群**の赤ちゃんが生まれる可能性があります。

6月号で関西での流行をお伝えしましたが、現在、関東でも流行が始まっており、横浜市内の報告数は、すでに昨年1年間の約1.5倍に達しています。流行の中心は、風しんの定期予防接種が開始された当時、接種対象ではなかった30~40代を中心とした成人男性です。詳しくは[横浜市感染症臨時情報](#)をご覧ください。

流行をおさえ先天性風しん症候群を防ぐために、成人も予防接種を受けましょう。特に、女性だけでなく、男性も接種することが大事です。ただし、妊婦は風しんの予防接種を受けられません。また、接種後2ヶ月間は避妊が必要になります。

次の方は定期予防接種として、**麻しん・風しん混合(MR)ワクチン**を無料で接種できます。

- ◆第1期 → 1歳以上2歳未満
- ◆第2期 → 5歳から7歳未満で小学校入学前の1年間
- ◆第3期および第4期 → 中学1年生相当と高校3年生相当
(接種を1回しか受けていない方で、平成25年3月までに限ります。)



この資料は、7月開催の横浜市感染症発生動向調査委員会の市民向け報告です。詳しくは[委員会報告](#)をご覧ください。市内の感染症に関する詳しい情報は、[感染症発生状況](#)をご参照ください。啓発用に[パンフレット](#)も作成しています。

横浜市衛生研究所 感染症・疫学情報課 (横浜市感染症情報センター)

<http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/idsc/>

